

---

# 李秀賢さん、僕もあなたを忘れない

地球の星

---

## 注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

### 【小説名】

李秀賢さん、僕もあなたを忘れない

### 【コード】

N9662B

### 【作者名】

地球の星

### 【あらすじ】

2001年1月26日、JR新大久保駅で、酒に酔って駅のホームから線路上に落ちた人を助けようとして、命を落とした韓国留学生、李秀賢<sup>イスヒョン</sup>さん。映画やパンフレットを通じて彼について学んだことを、この度作品にして発表しました。彼が韓日の架け橋になりたいという気持ちを持っていたこと踏まえて、僕自身の日韓友好の願いを作中に盛り込みました。

李秀賢さん、僕もあなたを忘れない

イ スヒョン  
李秀賢さんへ。

僕は、映画やパンフレットを通じて、あなたの人柄や、他人、特に弱い人を思いやる気持ち、そして窮地におちいった人を助けようとしたあの勇氣について学ばせて頂きました。

それまでスヒョンさんに関する情報とえば、あの事故のことしか知らなかったのですが、この作品を通じて、あなたが素晴らしい人だということを知ることが出来ました。

あの日、勇氣ある行動に出て、結果的にはあのようなことになってしまいました。その心は、いつまでも多くの人の心の中に生き続けるでしょう。

もちろん、僕の心の中にも生き続けています。  
いつまでも…。

イ スヒョンさんについて、この場をお借りして説明しようと思います。

彼は韓国人で、2000年に留学のために日本に来ました。

日本と韓国の関係がまだ今ほど親密でない中で、日本国内を旅行したり、色々な日本人と触れ合ったり、時には辛いことも経験したりする中で、2つの国の友好の架け橋になりたいという願いを持つようになりました。

しかし、2001年1月26日に、悲しい出来事が起こりました。その日、アルバイト先での仕事を終えて電車で帰る途中、JR新大久保駅で、酒に酔って線路上に転落した男性を見かけます。

彼は危険を覚悟の上で線路上に飛び降り、もう一人の日本人男性と共に、その人を助けようと思いました。

そこに電車がホームに入ってきました。

彼は「止まれ！」と叫ぶようにして、電車の前に立ちはだかりま

した。  
そして…。

その衝撃的な出来事をテレビで知り、僕自身もショックを受けました。

もし、あの現場で線路に転落した人を見かけたら、何も出来ないまま立ち尽くしていたでしょう。

何か出来たとしても、非常用ボタンを押すくらいしか出来なかったでしょう。

見ず知らずの人のために、どうして自分の人生を…。そう思いました。

映画「あなたを忘れない」は、公開前からインターネットや新聞でチェックしたりして、見るのを待ち望んでいた作品です。

そして、公開日の最初の上映の時に見ました。  
誰かがトラブルに巻き込まれた時には、積極的に助けに入ったこと。

異国の地で一生懸命アルバイトをしてお金をため、誰もやったこととの無いことに挑戦しようと、東京から自転車に乗って富士山に登ったこと。

タクシーと衝突事故を起こした時に、韓国人と知ったとたんに相手の日本人の人から態度を変えられ、ショックを受けたことなど、たくさんのことを学ばせていただきました。

映画を見た後には、パンフレットも買いました。  
そこに書いてあった記述から、スヒョンさんの人柄についてたくさん学ばせていただきました。

いじめに立ち向かっていって、いじめられている人を助けたり、結果は問題じゃない。気持ちが大変なんだという言葉を示したりと、本当に学ぶことは多かったです。

オリジナルサウンドトラックCDも買いました。

CDには韓国語の歌が何曲か収録されているため、リスニングの練習も兼ねて聞いています。

僕にとっては買って損はなかったです。

映画はとても気に入ったため、DVDが出たら必ず買うつもりです。

しかし、インターネット上の掲示板では心無い人達による荒らしの意見が横行しており、僕自身、日本人としてとても心が痛みました。

なぜ荒らしにあったのか。僕の予想では、韓国人は竹島、独島トクト問題など、両国が抱える問題について、言いたい放題言えて、日本人は何も言い返せないまま我慢するといった先入観が、日本人の中にあるからではないかと思えます。

みなさんも、韓国人による反日デモを見かけたことがあるでしょう。

新聞で、日本を非難するような意見を見かけたことがあるでしょう。

もちろん、それで心が痛む人も大勢いると思います。

でも人前ではそのような悩みを打ち明けることが出来ずに我慢するしかない。

だからネット上で韓国映画、あるいは日韓合作映画に不満をぶつけようとしてしまうのだと思います。

このような行動に走った人にもそれぞれの理由があることでしょうけど、僕は同じ日本人として恥ずかしいです。

韓国人に申し訳ないです。こんなことをしても、負の連鎖を生むだけです。

このようなことをして、当の本人達は嬉しいのでしょうか。

言葉が違うから韓国人には分からないでも思っているのでしょうか。

でも僕なりの体験を踏まえて言いますと、日本語を読める韓国人

はたくさんいます。

その数は韓国語を読める日本人よりずっと多いことでしょう。

もし、彼等が荒らしの文章を見たら、どれだけ傷付くでしょうか。僕自身は韓国語を勉強していますので、ある程度ハングル文字は読めます。

ハングル文字が読めたが故に、嫌な思いをしたこともあります。その度に悔しくなったり、怒りたくなりました。

もし、韓国人の友達に出会わず、韓国に興味を持つようなことがなかったら、間違いなく嫌いな国になっていたでしょう。

あの事故が起きた時、僕にとって韓国はまだ近くて遠い存在の国でした。時が過ぎるにつれて、あの出来事も次第に小さな過去に変わっていきました。

その後、僕はオーストラリア留学中に韓国人の人と知り合って友達になりました。

彼と英語で親しく話し合ううちに、次第に韓国について興味を持つようになりました。

僕が先に帰国してからはなかなか会う機会がない状態になりましたが、メールで色々な情報を交換しました。

両国の間には政治的にゴタゴタはあっても、僕達はそれを乗り越えて分かり合うことが出来ました。

過去や歴史に関することで何かあった時でも、相談し合うことが出来ました。だからその友達は僕にとっては大きな存在になりました。

その友達が日本語を勉強していたこともあって、僕は韓国語の勉強を始めました。

今では、多少話すことは出来るようになりました。しかし、まだ聞き取りが充分に出来ないため、まだ韓国語だけでは会話が成り立たない状態です。

でも、彼に出会えたことは、僕にとって大きなターニングポイント

トになったことは間違いないです。  
彼に出会えて本当に良かったです。

しかしその一方で、僕は以前まで中国が嫌いでした。  
とは言っても、元々は韓国と同様に、好きな国でした。

しかし、2004年7月に中国で開催されたサッカーアジアカップで、中国人サポーターによる大ブーイングを見てショックを受け、それが原因で嫌いになってしまいました。

その後は買い物をする時に「MADE IN CHINA」という表示を見かけると、安くても買うのを控えたりしました。

韓国人の友達と旅行をしている時に、「一緒に中国に行きたいね。」と言われたことがありましたが、その時には「行きたくないよ。あんなに人を侮辱して、それを楽しめる人達がいる国なんか、誰が行くもんか！」

と、怒りを込めて言い放ったこともあります。

こんなことを書いたなら、読者から「地球の星さんも人のこと言えるの？」という声がかかるかもしれません。

確かにその通りです。そのような行為に走っても、結局は嬉しくなかったですし、他人に話しても、前向きな意見などもらえませんでした。

その後、職場で中国人の人と話をする機会がありました。

サッカーアジアカップなど、関係をギクシャクさせてしまうようなことは一切話してないので、あの件を彼らがどう思ったのかは知りません。

しかし、彼らはとても親日的で、やさしく接してくれました。

日本語もかなり堪能でした。

もし、日本が嫌いだったら、彼らは日本語を勉強することはないでしょう。

僕ももし韓国が嫌いだったら、韓国語は勉強しようとは思わなか

ったでしょうから、なおさらです。

僕は（すごいなこの人達、よほど日本について学びたかったんだろうな）と思いました。

そんな態度を間近で見っていくうちに、中国に対するイメージを段々変えていきました。

また、少し前には、中国を訪れた日本人が、中国人の優しさや、日本について積極的に知ろうとする姿勢を見て、中国を好きになったという話を聞きました。

僕は今では反中の行動派はしないことにしています。

韓国に行つて、日本人の僕にやさしく接してくれた人が大勢いることを実感したように、中国でもそうした人は大勢いる。僕はそう信じています。

韓国が好きな国だったから、中国に対しても考えを改めることが出来ました。

さらに元をたどれば、日韓関係について悩みを相談出来る人がいたから、韓国が嫌いにならずに済みました

もちろん、その悩みを打ち明ける時にはかなり勇気がいりましたが、彼らはちゃんと聞いてくれました。

「反日感情のせいで不快な思いをさせてごめんね。」というような配慮の言葉も頂きました。

僕自身、とても嬉しかったですし、韓国人も悩んでいるんだなと思えました。

また、日本人による反韓感情というものについて考える機会にもなりました。

もし、韓国との関係などで、不快な思いをしたりした時には、ぜひ僕がこのサイトに投稿した作品を読んでほしいと思います。

自分なりの意見や、どうすれば気持ちが前向きになるのかなどを、色々述べています。

その中の言葉が、読者の不満解消につながれば、そして前向きな

気持ちにつながれば、僕としても嬉しいです。

それでも人は慣れない異国の地に行けば、ささいなことで警戒してしまふことがあります。

僕自身も、韓国でテレビを見ている時には、コメンテーターが興奮したような口調で、イルボン（日本）と言つと、何か変なこと言っていないかと気になったことがあります。

博物館などで、韓国語、英語、日本語、中国語で書かれた解説文を読んでいる時には、立っている位置や、目線の高さで僕が日本人であることがすぐに分かってしまうため、ここでも警戒心が働いてしまいました。

会話もなかなかうまく出来ずに苦労しました。しかし、見ず知らずの日本人の僕のために、色々な手助けもしていただいたことがあります。

象徴的だったことは、釜山から帰国する日、空港行きのバスに乗ろうとした時のことです。

場所はあっているはずなのに、待っていてもバスがなかなか来なかつたため、まさか間違えたかと思いました。

しかも焦っていたせい、ハングル文字がうまく読めず、空港で時間内に手続きするための時間が気になってきました。

その時、たまたまバス停にいた見ず知らずの韓国人に、どのバスに乗ればいいのかを体当たりで聞いてみました。

口調はただどしどしかつたですし、後で気がついたことですが、しやべつた韓国語に間違いがありました。

それでもその人は、どのバス番号が空港行きかを教えてくれて、そのバスが来ると、自ら近づいていつてドアを開けさせ、僕を呼んで招き入れてくれました。

焦っていた僕はとにかくバスに乗り込むことに精一杯だったため、その人にはお礼も言えないままでした。

その人には申し訳なかつたですが、あの優しさは忘れません。

それ以外にも韓国人の優しさに触れる機会はたくさんありました。自分も日本で、困っている外国人の人がいたら、日本語がうまく話せない人でも積極的に手助けしていききたいです。

韓国に行つて本当によかったと思つています。ますます韓国が好きになりました。

そして、日本と韓国の架け橋になりたい、ふたつの国のために尽くしたいという気持ちがあります。強くなりました。

日本と韓国の架け橋になろうという人がこれからますます増えれば僕としても嬉しいです。

両国に関して前向きなニュースが、これからどんどん増えていくことを、僕は願つてやみません。

僕は韓国について書いていますが、別に他の国を度外視しているわけではありません。

中国との架け橋、ロシアとの架け橋になりたいと思つている人もきつといるでしょう。

そういう人達には、国名をそれぞれの国に置き換えて読んでいただければと思います。

以前の僕は何かしようとしても、人の目を気にして引き下がってしまう一面がありました。

でも、スヒョンさんについて学んでから、すすんで道端に落ちているごみを拾ったり、ネット上で積極的に自分の意見を述べたりするようになりました。

電車に乗っていて、イヤホンから音が漏れている時、見てみぬふりをせずに、音を下げてもらえるようお願いすることもするようになりました。

飲食店では、自分で箸を持参して堂々と使うようにもなりました。理由はいくつもあります。スヒョンさんならきつと前向きな意見を見せてくれると考えたことも、その一つです。

物事をやってみるか、やらないかで迷った時、とにかくやってみよう。スヒョンさんならきつと応援してくれる。そう考えたことも何回かあります。

スヒョンさんの人柄や、前向きさは僕の心の中で、確かに生き続けています。

今日本では、たくさん留学生がいます。そして、日本語がうまく話せないまま旅行している人もたくさんいます。

僕は、スヒョンさんから学んだことを思い出しながら、そういう人達の力になりたいと考えています。

イ スヒョンさん、僕はあなたを決して忘れません。あなたは千の風になって、みんなの心の中で生き続けています。いつまでも…。

(後書き)

韓日友好の架け橋になりたいという願いを持っていた李秀賢さん<sup>イ スヒョ</sup>さんへ。  
この作品を僕からあなたへささげます。  
カムサハムニダ。

李秀賢さん、僕もあなたを忘れない

# 広告募集中

小説関連広告に最適です。  
出版社や印刷会社はもちろん、  
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9662b/>

---

李秀賢さん、僕もあなたを忘れない

2009年6月15日22時03分発行